

教 科	美術科	学 年	第 2 学年	担当者	奥澤 愛
-----	-----	-----	--------	-----	------

【教科目標】

- 1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を育てる。
- 3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- 4 主体的に考え、考えを作品にするために必要な情報を集める力をつける。集めた資料を工夫して利用し、学んだ技術を活用し創作活動ができる。

【使用教科書・教材等】

教科書：美術2・3上下（日本文教出版）	副読本：美術資料（秀学社）	クロッキー帳	絵の具セット	習字セット
---------------------	---------------	--------	--------	-------

【学習計画】

学期	題 材 名	学 習 の ね ら い （身につけたい力）	準備物
1 学 期	プロローグ	・ 2 年生の美術で何を学ぶのかを知る。 これからの学習内容に関心を持ち、学習の意義や内容、評価について理解する。	
	視点の冒険 ・ 鑑賞（例示も含め随時）	・ 表現したい世界をイメージして構図を考える。 ・ 遠近感のある空間を想像して効果的に表現でする。 ・ 身の回りの景色を造形的な視点でとらえ、構図を練ることができる。 ・ 自分の表現したいイメージに沿った表現ができる。 ・ 同じ景色でもとらえる人間によって見方や表現の仕方が変わることを知り、自分の考えを持つことができる。	プリント クロッキー帳 教科書 絵具セット
2 学 期	空間に光を飾ろう 照明デザイン ・ 鑑賞 「光」がもたらしたもの 憩いを生み出す場所	・ 生活に与える光の効果を知り光と影の効果を考えて構想を練ることができる。 ・ 想像を働かせて彩色を工夫しデザインできる。 ・ イメージしたデザインを立体的に表現ができる。 ・ 「光」をテーマに日本や世界の美術史にふれ、「光」が人々にもたらしてきたものについて知り、自分の考えを持つ。 ・ 身近な環境の中にみられる造形的な美しさに気づき、生活や社会をよりよく豊かにする視点を持った表現ができる。	※材料は配布しますが一部廃材など持参することもあります。 （空きペットボトルなど）
3 学 期	水墨画 ・ 鑑賞「北斎の大波」	・ 浮世絵が世界に与えた影響について理解する。 ・ 描かれた時代背景や描かれている場面について思いをはせ、想像力を働かせ日本の美術文化について考える。 ・ 墨の濃淡（空気遠近法）や日本画の大胆な構図、デフォルメついて理解する。 ・ 学んだ技法を工夫して構図を考える。 ・ 表したいイメージを広げることができる。 ・ 実際の技法を知り工夫をして作ることができる。	習字用具

※生徒の様子、学習状況や進度によって、題材の順番の変更や改変をすることもあります。

【評価の観点と評価の方法】（通知表のつけ方）

評価の観点	知識・技能(33%)	思考・判断・表現(33%)	主体的に学習に取り組む態度(34%)
評価の観点の趣旨	・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・ 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・ 毎時間の授業の様子（制作に取り組む姿勢）（準備物、片付け含む） 作品、プリントなどの記入内容や授業の様子	毎時間の授業の様子 ・ 授業中の活動の中での構想や取り組む様子。（作品、下図、プリントなど提出物含む）	・ 毎時間の活動の様子 ・ 作品への手の入り。 ・ 用具を正しく丁寧に使う。 用具を工夫して使う。 ・ 素材の特徴を生かす。 ・ 意図に応じた表現法

【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

- 1 集中して授業に取り組みましょう。
・ 1 時間 1 時間を大切にし、授業時間を有効に使いましょう。もしも、時間が間に合わない場合などは家庭学習で補うことも必要になります。（構想・発想段階・準備段階）しかし、作品の制作についての家庭での補習は認められません。欠席などで遅れている場合には申し出ると補習は可能です。
- 2 題材ごとに、何を大切にしなければならないのか理解し、完成予想をしっかりイメージし制作していくことが大切です。
- 3 考え、決定し、表現する課程の中で完成させる喜びを味わうために各段階での努力を惜しまない。
- 4 必要な資料を準備して授業に臨み、用具などを大切に扱い、管理もきちんとするよう習慣づけよう。
- 5 できあがった作品は大切にしよう。作品はその人自身であると思って他人の作品も大切にしよう。

【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）

日常生活で、普段なにげなく見ているもののの中に、形や色の美しさ・面白さを発見し感じるようになれば、美術への興味が一層深まります。又、自分から進んで美術の本や写真を見たり、時には美術展などに足を運んだりしてみるのも良いでしょう。たくさん本を読んでいろいろなことを想像できるやわらかい感性を育てよう。世の中にあるものすべてが美術の授業では役に立ちます。新聞を読んだり、ニュースを見たりというのは考えたり表現したりするうえでの助けになります。好奇心をもっているいろんなことに挑戦することが大切です。